

内橋克人さんが伝えてきた言葉

キャスターの国谷裕子さんが、『世界』11月号で表題について、「人が人らしく生きていける社会を」と題して綴っている。

つねに問いを出しつづけ、警鐘をならし、新たな社会のあり方を提示した経済ジャーナリストの内橋克人さんが、9月1日、亡くなられた。いったい経済学は誰のためにあるのか、人間を主語にした経済学を求めて活動をしてこられた内橋さんが私たちに投げかけた「人が人らしく生きられる社会」とは、どういうものだったのか。出演していただいた「クローズアップ現代」を中心に、数多くの内橋さんの言葉をあらためて見つめてみたい。

内橋さんの「クローズアップ現代」への初めての出演は、番組が始まった1993年の4月14日、最後は2014年10月30日。20年余りの間、スタジオゲストとして46回出演され、まさに番組と伴走していただいた。バブル崩壊後の痛みが本格的に表面化する中でスタートした番組は、不良債権の重みに苦しみ、海外との競争にさらされた企業が、人件費軽減を目指して社員の解雇や早期退職などリストラに突き進む様子を伝え続けた。

2014年、最後に出演した「クローズアップ現代」で、人が人らしく生きていくことがますます難しい時代になると話した。しかし内橋さんは、自由な企業行動の帰結が公的利益と矛盾なく共生する第三の道への模索を続け、四半世紀も前に食糧やエネルギーの自給圏という答えに行き着いていた。そして繰り返し語っていた、働く、暮らす、生きる、を統合する経済。内橋さんが提示したこうした考え方は、地球環境や地域社会の持続可能性が喫緊の課題となっているいま、その先見性があらためて光る。ようやく時代は内橋さんに追いつこうとしている。

写真はNHK「追悼 経済評論家内橋克人 未来への遺言 - クロ現プラス 取材ノート」から(番組は9月23日放送)。経済評論家で、ジャーナリストの内橋克人さんが亡くなりました。権力におもねらず、弱い人たちの側に立ち続けた、89年の生涯でした。あらためて過去の番組での発言を見ますと、まさに今の時代を予見していたような鋭い洞察に驚かされます。内橋さんは、今も進行中の格差の拡大、すなわち、豊かな者がより豊かになり、貧しい者がより貧しくなるような経済のあり方に警鐘を鳴らし続けました。これを内橋さんは〈市場原理至上主義〉と呼び、一貫して批判し続けました。そして内橋さんが訴え続けたのは、人間の幸せを中心に据えた「もう一つの経済」は、可能だということです。それは、いったいどういう経済なのでしょう。今回は、内橋さんが時代とどう向き合い、どんなメッセージを発信されてきたかのかを紹介します。次ページに「内橋さんが出演したクローズアップ現代リスト」を掲載。



(2021年10月17日)

内橋さんが出演したクローズアップ現代リスト

1. 1993年 4月 14日 査定導入で生き残れ 町工場の雇用改革
2. 1993年 6月 23日 新党結成・羽田代表の本音に迫る
3. 1993年 7月 29日 政権交代へ ～非自民7党党首に聞く～
4. 1993年 10月 5日 対論・どうする所得税減税
5. 1994年 1月 13日 零細経営者はなぜ死を選んだのか ～丹後ちりめんの里～
6. 1994年 3月 1日 さらば東京 ～不況で増えるIターン志願～
7. 1994年 3月 2日 ホワイトカラーの合理化が始まった 組織改革の舞台裏～
8. 1994年 3月 3日 “半値”で生き残れ ～これがスーパーの生き残り戦略だ～
9. 1994年 5月 11日 町工場に技あり ～格闘・ポテトフライ製造器開発
10. 1994年 6月 16日 ロボットから人手へ ～トヨタ・主力工場の大変身
11. 1994年 7月 11日 負債5000億円からの再建～追跡・戦後最大の倒産
12. 1994年 7月 12日 戦後初！信用組合解散の内幕
13. 1995年 2月 9日 焼け跡からの再建 ～地場産業壊滅の中で～
14. 1995年 3月 13日 職人技が消えていく ～国産技術が危ない～
15. 1995年 5月 10日 円高・それでも海外移転せず
16. 1995年 8月 31日 海外移転はしたけれど ～人件費高騰・増える工場撤退～
17. 1995年 10月 24日 損失1100億円はこう隠された ～大和銀行事件の構図～
18. 1995年 12月 4日 急増する住宅ローン破産 ～貸金下落・返済計画の危機～
19. 1996年 1月 29日 給料は上がらないのか～ベア・定昇廃止宣言の衝撃
20. 1996年 5月 14日 継続か見直しか？～臨海副都心開発・迫られる決断
21. 1996年 6月 21日 負債136兆円 ～岐路に立つ自治体～
22. 1996年 12月 5日 負債は誰が背負うか～急増・第3セクターの破たん
23. 1997年 2月 26日 部品ひとつが自動車産業を止めた ～検証・ブレーキ部品工場火災～
24. 1998年 1月 13日 商店街が消えていく ～スーパー撤退の波紋～
25. 1998年 4月 1日 3社長はなぜ自殺したのか
26. 1998年 8月 26日 逆流する自動車部品 ～アジア進出企業 生き残り戦略～

27. 1998年12月1日 「貸し渋り」解消になるか ～中小企業40兆円融資の行方～
28. 1999年1月21日 就職先が決まらない ～変革迫られる職業高校～
29. 1999年2月23日 厚生年金 相次ぐ企業の脱退
30. 1999年9月8日 問われる二重価格 ～検証・安売り商品の値段～
31. 2000年1月12日 阪神大震災から5年 苦境に立つ中小企業
32. 2000年7月27日 中小企業を救えるか ～検証・民事再生法～
33. 2001年8月2日 タクシー運転手が足りない
34. 2001年10月24日 さらば正社員 主役はパート
35. 2002年1月21日 急増一日契約で働く若者たち
36. 2002年5月14日 会社の中で独立します ～広がる個人事業主～
37. 2002年12月4日 高速を走る“過労トラック”
38. 2005年6月23日 街中に人は呼び戻せるか ～高齢化時代の都市再生
39. 2005年12月15日 故郷が消えていく ～相次ぐ集落崩壊～
40. 2006年6月6日 割りばしに異変あり
41. 2006年11月21日 隠される“労災” ～製造業の現場で何が～
42. 2007年4月26日 作家・城山三郎がくれたメッセージ
43. 2008年3月12日 正社員化が加速する
44. 2008年11月20日 急増する“荒廃”マンション
45. 2009年4月23日 シリーズ オバマの100日② 医療保険制度改革のゆくえ
46. 2010年1月27日 正社員の雇用が危ない
47. 2011年3月30日 連鎖する震災ダメージ どうする日本経済
48. 2011年10月17日 “自給力”～食とエネルギーを自給する暮らしの可能性～
49. 2012年3月1日 震災データマップ 記録が語る新事実
50. 2014年10月30日 人間のための経済学 宇沢弘文 ～格差・貧困社会への処方箋～